

【特別企画】こども文化学会講演

コロナ禍における GIGA スクールの活用

友利 星美

今回は、私が所属している学校現場の取り組みについてご紹介致します。オンライン授業をすることになった背景としては、現在、世間を騒がせている新型コロナウイルスの拡大蔓延防止対策として学校が休校になったことが挙げられます。それを受けて、本校では、児童との繋がりを止めないため、毎日の児童の様子を確認するためにオンライン授業を取り入れました。私たち教員も初めての取り組みで、わからないこともたくさんありましたが、教員同士での情報共有や教育事務所・研究所の協力を得て、試行錯誤しながら進めていきました。

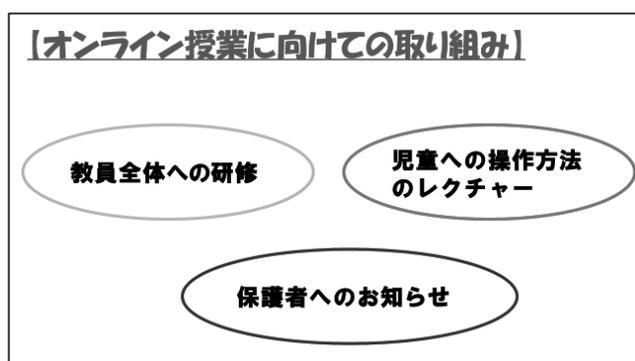


図 1

まず、オンライン授業を行う上で、『教員全体への研修』『児童への操作方法のレクチャー』『保護者のお知らせ』の3つの観点から取り組みました。

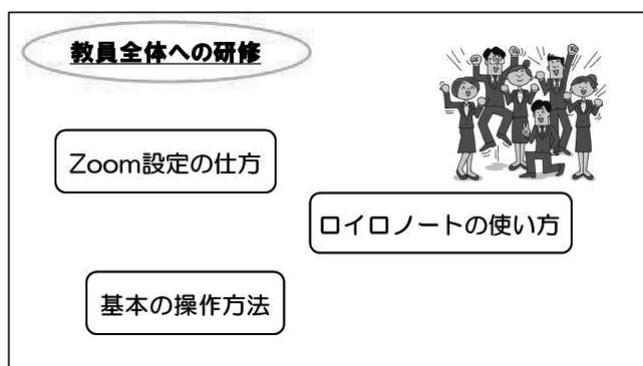


図 2

『教員全体への研修』としては、

・【Zoom 設定の仕方】

ログイン方法やミーティンググループの作り方

・【基本の操作方法】

ミュートやその外し方、画面共有のやり方

・【ロイロノートの使い方】

ログイン方法、課題やカードの送り方、提出箱の作り方、回答共有の仕方、ロックのかけ方を各学年代表が学び、それを学年に持ち帰り、共有して準備をしました。

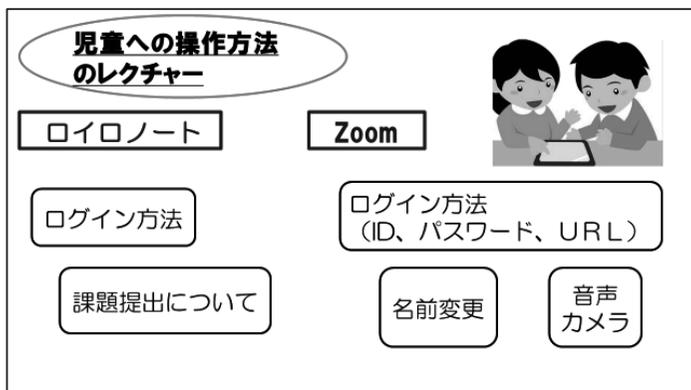


図 3

『児童への操作方法のレクチャー』としては、【ロイロノート】と【Zoom】の操作方法を基本的なところから教えました。

・【ロイロノート】

児童一人一人に ID とパスワードがあるので、その入力の仕方やノートの出し方、写真の撮り方やつなげ方、課題の提出方法や見方 等

・【Zoom】

ログイン方法や QR コードの読み取りからの移動操作、URL からの入り方、名前の変更方法、音声やカメラの操作方法 等

上記のことを授業時間を使って教えました。私が担当している 2 年生は、ほとんどの児童が iPad を使ったことがないため、操作の見通しが持ちやすいように予め操作方法を動画で取ったり、同時に目で確認しながらできるようにミラーリングをしたりなど、工夫しながら 2 時間かけて教えました。

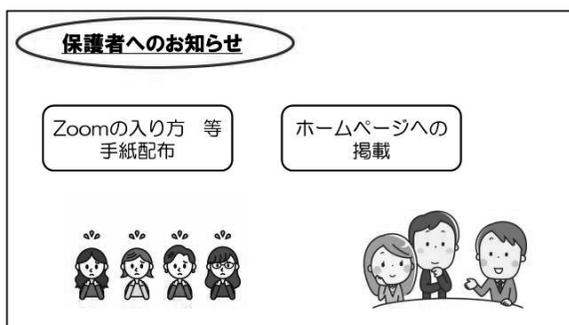


図 4

『保護者へのお知らせ』としては、Zoom を活用したことがない保護者もいるため、操作方法の共有や休校中の学習について、今後の流れを手紙やホームページでお知らせいたしました。

これらのことを踏まえ、実際にオンライン授業を行っていきました。

授業を進めていくにあたり、本校では、校長先生がオンライン授業について4段階のステップの流れを作成しており、それにならって、休校中の授業の方法を考えました。2020年の休校や2021年6月の休校では、Step1・2『オンライン朝の会』として取り組みました。

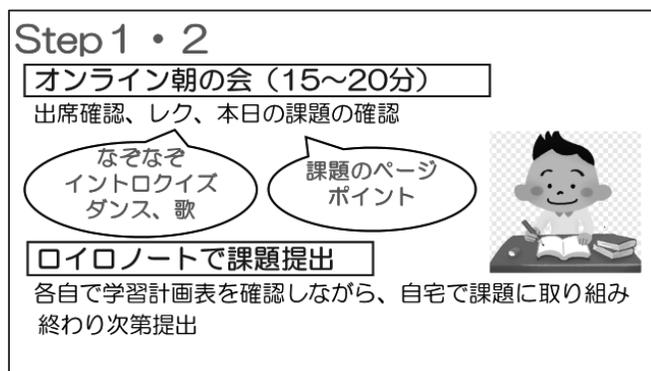


図 5

表 1 学習計画表一部拡大

国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> ○スイミー 教科書P63～76の音読 ○あかねこ漢字スキル上 赤りんご7を覚える ○漢字プリント「妹」「線」 書き順に気をつけて、丁寧に書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○100をこえる数 ①算数の友P48、49をやりましょう。 ②教科書P77の問題をやりましょう。 教科書に書き込んでください。
休校中の宿題→6月7日 国語	休校中の宿題→6月7日 算数

2年生では、学年で一つのミーティングルームに入室してもらい、全体でオンライン朝の会を行いました。時間は15～20分程度で、

1. 出席確認
各クラスの担任が名前を呼び、児童もミュートを外して返事をする。
2. レク
3. 課題の説明
ページ確認や本時のポイントの共通理解をはかる

の内容で進めました。オンライン朝の会終了後、児童は自宅で学習計画表（表1）を確認しながら課題に取り組み、ロイロノートで課題を提出します。提出された課題を担当が丸付けをし、返却するという流れでやり取りをしていました（図6・7）。

自宅でやった課題を提出（算数）



教科書や計算スキルドリルなどの問題を解いて、提出してもらい、教師が丸つけをして児童に返却をしました。

図 6

自宅でやった課題を提出（国語）

国語では、漢字スキルや課題として取り組んだノートを提出してもらい、丸つけをして返却をしました。



図 7

2020年・2021年6月の休校を受け、2021年9月休校では、Step3として『オンライン授業』を行いました。Step3としては、下記（図8）のような展開になります。

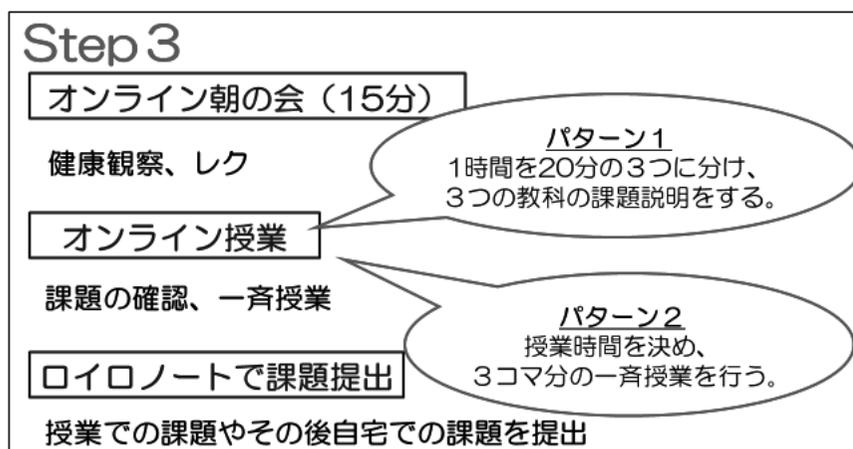


図 8

2年生は、学校のリズムを崩さない為と画面越しで教師と一緒に頑張る児童が多いと

いう実態から、左ページ下（図8）のパターン1で授業を行いました。詳しい流れは次記の図9になります。

2学年の場合

8:45~ オンライン朝の会
朝の挨拶、朝の体操

9:00~9:40 オンライン授業 1コマ目

9:50~10:30 オンライン授業 2コマ目

10:40~11:20 オンライン授業 3コマ目
連絡事項





授業後

課題をロイロノートに提出



図9

授業の形態に関しては、各クラス・学年・教科担任制など、各学年でやりやすい方法を選択し、授業を進めていきました。私が担当している2年生は、1週目は各クラス、2週目は学年で曜日ごと担当を振り分け、授業をしました。授業は、電子黒板や電子教科書、プリントやパワーポイントなどを活用して進めていきました。午前中のオンライン授業終了後、児童は授業で終われなかった残りの課題があれば各自で取り組み、ロイロノートに課題を提出し、担任が確認をして返却をします（図10・11・12）。

また、オンライン授業に参加できなかった児童の為に何をやったのかがわかるように、前回同様、学習指導計画表（表2）を作成し、配布・ホームページへ掲載し、各自で確認できるようにしていました。

表2 学習計画表一部拡大

	国語	算数	音楽
授業内容	教科書 P116 「どうぶつえんのじゅうい」 くめあて> じゅういのしごとを知り、時間のじゅんに気をつけてお話を読もう ①じゅういのしごとを2つさがす ②「ある日のわたしのしごとのこと」には、どんなことが書かれているか読んでいく ③文のまとまり「だんらく」ごとに「ある日のわたしのしごと」についてまとめる ④「ふりかえり」はじめて知ったこと、かんそう	教科書 P108 「だし算とひき算のひっさん」 一のくらいも十のくらいもくり下がりがあるひっさんをする。	①校歌 ②2拍子・3拍子の曲を振り返る、リズム打ち ③4分音符の学習 ④この空とぼうに合わせて2拍子打ち ⑤いるかはざんぶらこにに合わせて3拍子打ち
提出	①ノート 「じゅういのしごと2つ」「ふりかえり」 ②プリント 「2から8だんらくのいつ、動物の名前」 ③かんじスキル赤りんご11 「昼、半」 ④かんじプリント「昼、半」	①計算スキル P39 ②算友P12、13 ③かけ算九九（ノートに7のだんを書き）	
	休校中の宿題→9月6日 国語	休校中の宿題→9月6日 算数	



授業で一緒にやった筆算の問題を提出してもらい、学習の定着を確認しました。

図 10

授業で確認した、ワークシートやノートを提出してもらい、実態の確認をしました。

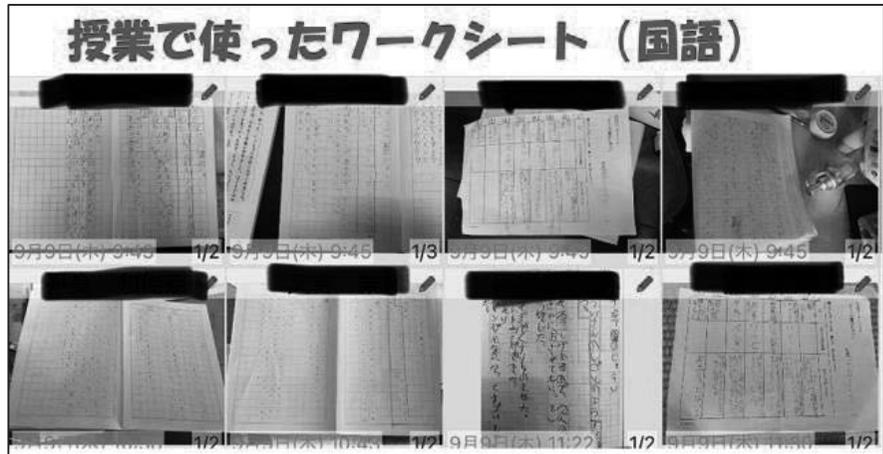


図 11



図 12

図工の授業で「クネクネ」や「ギザギザ」など言葉を線で表したものを提出してもらいました。これは共有して児童が他の友達の作品も見える様に設定しました。

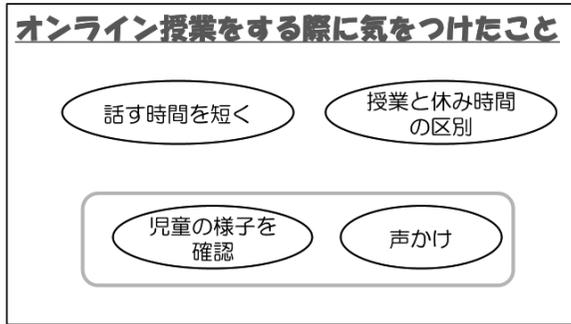


図 13

オンライン授業をする際に気を付けたこととしては、左記（図 13）に示していることです。太枠の四角で囲まれている部分は、特に気を付けました。オンライン授業だと画面を見て話を聞くだけなので、集中力が持ちません。その為、話はなるべく端的にし、書き込みや教科書の開いているページを画面に見せてもらうなど、児童の様子を確認や声掛けをしながら進めることを意識していました。

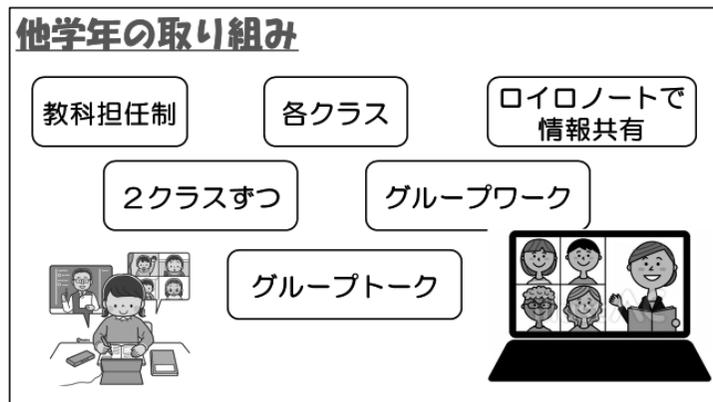


図 14

他学年の授業方法としては、上記（図 14）のようなものがあります。

・【教科担任制】

国語・算数・理科等、教科で担当を割り振り、一人の先生が学年の児童に授業を教えるという形。

・【ロイロノートでの情報共有】

児童の提出したカードを他の児童も見れるように設定し、考えを広げたりヒントとして活用したりする。

・【グループトーク】

Zoom にブレイクタイムという機能があり、それを活用していくつかの部屋を設定し、児童が指定された部屋に入り、同室のお友達と話し合い活動を行う。その際、教師も各グループを確認しに行くことができる。

・【グループワーク】

グループトークの場面で、一人の児童の回答を共有し、それに他の児童が書き込みをできる機能。それを活用し、教え合いや自力解決のヒントにする。



図 1 5

オンライン授業をしてよかった点としては、上記（図 1 5）のようなことが挙げられます。

特に本校は、前述にもあるように、児童との繋がりを持つためにオンライン授業を活用したので、児童の家での様子や顔色などを毎日確認することができたことは、学校が再開する上でも役に立ちました。また、ほとんどの児童が参加する為、児童の学びを止めずに共通理解をさせながら授業を進めることができ、学校に戻ってきた際には、復習をしてすぐテストをすることができました。休校中は授業後、ロイロノートで課題提出をもらうことで、個人個人でどのくらい学習の定着ができているのかを確認することもでき、学校再開後、数名の児童に補習を行うこともできました。そして、休校が明けた後も、別室登校の児童や濃厚接触者の児童の対応として、ハイブリット型授業として活用することもできました。それ以外にも、普段の授業や宿題でも活用することができています。例えば、児童が作成したものをロイロノートに写真で提出してもらうことによって、各自の席で友達のもの一人ずつ丁寧に読むことができたり、写真で記録として残しておくことによって、評価がしやすくなったり、いろいろ活用しています。

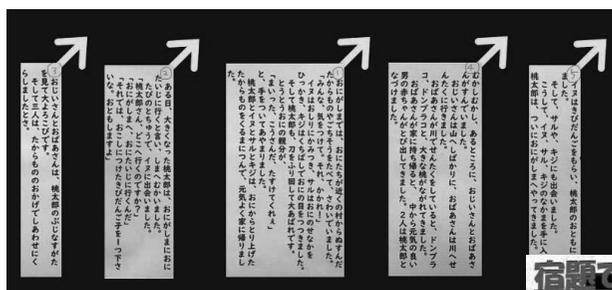


図 16

コロナ感染の予防から音楽の授業であり鍵盤ハーモニカの練習をする時間を設けることができない為、自宅で練習動画を取ってもらい、提出したものを確認する形で活用しました（図 17）。

国語の構成の授業では、カードを使って、各自並び替えをさせ、話の流れを考えさせる場面で活用しました（図 16）。



図 17

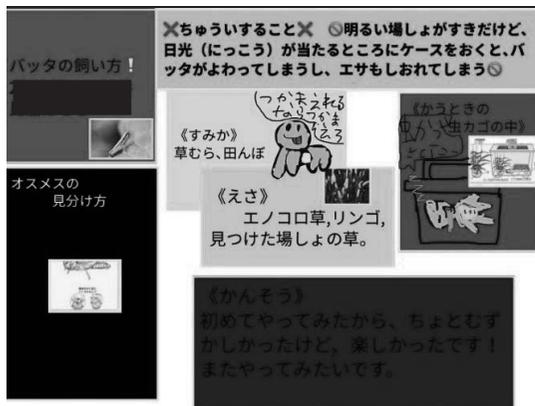


図 18

生活科の授業で調べ学習をしたことをまとめる場面で活用しました。絵をかいたり、写真を直接挿入することができるので、特別支援の児童もある程度一人で活動ができていました（図 18）。

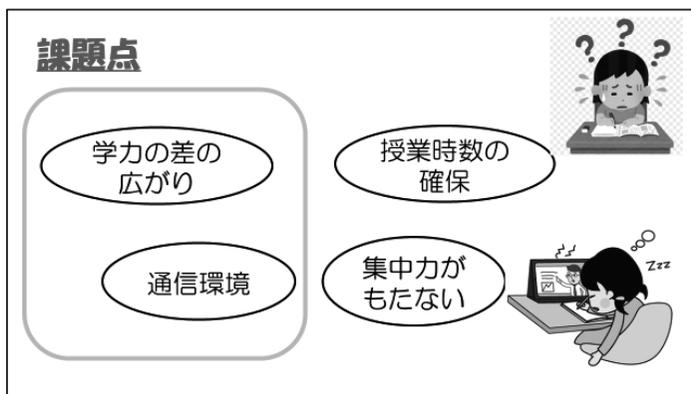


図 19

その一方で、課題点として上記（図 19）のことが挙げられます。

前述した通り、授業の内容を進めることはできるが、その後、学習定着を図るための復習の時間も取りながら他の単元の内容も進めたり、他教科の内容も終わらせたりするための授業時数の確保が難しかったように個人的に感じました。特に、太枠で囲まれたところが課題として強く感じました。画面越しでの一斉授業になるので、学力が低い児童にとっては近くに保護者がいないと一人では課題に取り組めないという状況も見られました。実際に私の学級の児童への対応としては、特別支援レベルの児童だったため、午後に補習として Zoom に入室してもらい、個別支援をしたり、課題の解答を全て送って写し勉強とさせてたりしました。また、課題を出さない児童に対しては、午前中の授業後に居残りとして課題を提出してから退出したり、そこで個別に指導したりと対応をしました。

オンライン授業を進めていく上で他に課題となるのが、やはり通信環境の問題であると感じます。自宅に Wi-Fi 環境がない児童やネットワークの整備がされていない環境にいる児童も数名はいるため、そこも整えてもらうことが、今後オンライン授業を進めていく上で解決が必須となると考えます。その理由で授業に参加できない児童に対しては、今回、学校で受け入れて対応しました。

今回、休校中のオンライン授業の取り組みを通して、Zoomの使い方やロイロノートの活用方法など、今まで以上に多くのことを学ぶことができました。私自身、機械に強くは無いので不安もありましたが、同僚の先生方と情報共有しながら教えてもらううちに、自身でもいろいろ操作をすることができるようになりました。誰しも初めてやることに対して、不安や悩みはあると思いますが、実践することによってそこからの学びもあると改めて実感することができました。在校生の皆さんにも、失敗から学ぶこともたくさんあるので、まずは挑戦してみる勇気や周りの人は優しい人がたくさんいますので、困ったら周りの人に聞く勇気をもってほしいと思います。私も社会人になった今、それを意識して過ごしています。